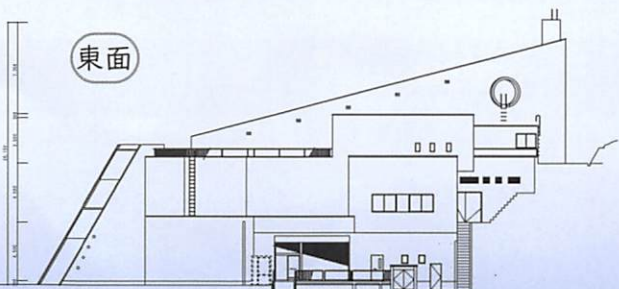
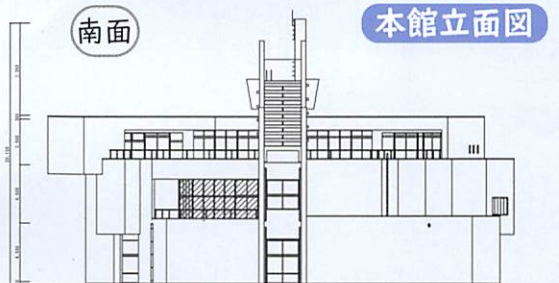


2つの重要文化財、「千葉県金鈴塚古墳出土品」と「上総掘りの用具」をはじめとする市所蔵資料を活用し、様々な事業を通して、木更津市を中心とした歴史や文化を展示公開することで郷土愛を育み、観光客や研究者のニーズにもこたえます。

また、新たな知見や調査成果を柔軟に展示等に反映させ、固定化した展示に留まらないよう、より充実した常設展示を目指します。



木更津市郷土博物館 金のすず



- ・JR木更津駅 太田山口から徒歩 20分
- ・東京湾アクアライン 袖ヶ浦I.Cから車で 15分
- ・館山自動車道 木更津南I.Cから車で 10分
木更津北I.Cから車で 15分

開館時間 9時～17時（入館は16時30分まで）

休館日 月曜日（月曜が祝日の場合は翌日）
年末年始（12月28日～翌年1月4日まで）
その他（臨時に休館する場合があります。）

観覧料

常設展	個人	団体	年間観覧券
一般	200円	160円	1,020円
大学・高校生	100円	80円	510円
中学生以下	無料	無料	
65歳以上	無料	無料	

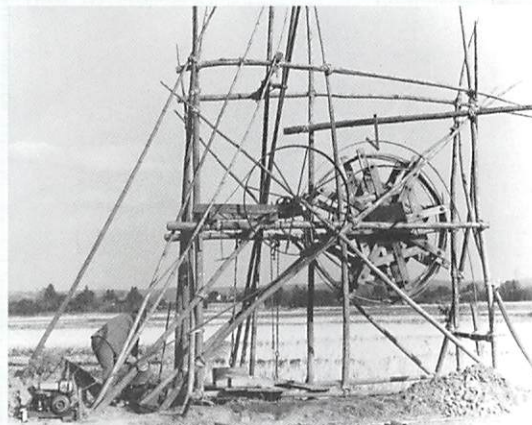
団体は20人以上となります。

障がい者手帳所持者は、本人と付き添いの方おひとり無料。
特別展開催時は、1,020円以内でその都度定めます。





第2展示室 重要文化財 千葉県金鈴塚古墳出土品



第9展示室 重要有形民俗文化財 上総掘りの用具



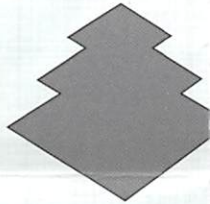
第9展示室 木更津市中島の梵天立



第5展示室 木更津市名誉市民 千代倉桜舟の書



第3展示室 真里谷城鳥瞰図



第4展示室 一文字

金鈴塚の輝き

・重要文化財「千葉県金鈴塚古墳出土品」

木更津の歴史1

・旧石器時代～古墳時代中期各種出土品

情報コーナー

・博物館の使命
・博物館の仕事
・博物館を支える人々

書画の魅力

・市所蔵の書画
・千代倉桜舟の書

木更津の歴史4

・木更津県の成立
・軍都木更津
・市域の拡がり
・災害

くらしの技術1

・海辺のくらし
・田と山のくらし

くらしの技術2

・重要有形民俗文化財
「上総掘りの用具」
・くらしの道具
・「木更津市中島の梵天立て」

展示案内

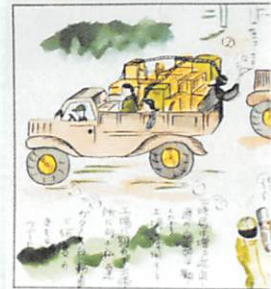


木更津の歴史2

・古墳時代後期～
戦国時代各種出土品
・木更津という地名
・上総鎗物師と
大野五郎右衛門
・真里谷武田氏の盛衰

木更津の歴史3

近世の木更津
・木更津船
・人々の祈り
・江戸時代の教育
・戊辰戦争と請西藩



第7展示室 回顧



第7展示室 伊江島に到

「金のすず」の由来

昭和25(1950)年、当時二子塚と呼ばれていた長須賀の前方後円墳が調査されました。調査の結果、他に類を見ない数多くの出土品の中から、金色に輝く直径1cm程度の鈴が見つかりました。

この鈴にちなみ、古墳の名前を「金鈴塚」に変更し、当時としては異例の地元での保管管理を目指して昭和31年に県内市町村初の新設展示館「金鈴塚遺物保存館」が太田山に建設されました。

現在、千葉県には博物館協会という約60館が加盟する組織があります。会を創設した昭和37年には、県立富津海洋資料館、金鈴塚遺物保存館、野田市立郷土博物館、鹿野山神野寺宝物館、宗吾霊堂の5館で、君津地方の施設が3館を占めていました。本館前身の県立博物館第1号館である上総博物館の建設時も、金鈴塚古墳出土品を展示する計画が当初あったようです。

このように金鈴塚の発掘に端を発し、「金のすず」は千葉県の博物館行政に少なからず影響を与えています。

なお、平成になって当館における金鈴塚古墳の研究で分析したところ金鈴の金含有率は98%以上であることがわかりました。



◎博物館の様々な活動

博物館では、資料の保管管理、教育普及活動、調査研究の3本を仕事の軸に据え、郷土博物館金のすず友の会、きさらづ文化財ガイドボランティアの会、個人的な市民のボランティア、他の博物館や各地の研究者と協力しながら様々な活動をしています。

常設展示や企画展示以外にも講習会などのイベントを開催しています。

調査成果は展示や講演会、講習会、出版物などで公表しています。ぜひご覧ください。



エントランス 友の会の



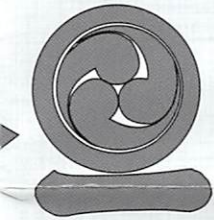
旧安西家住宅 ボランティアの会

図之坊殖養立築苔海合組紫奥島中南州畔

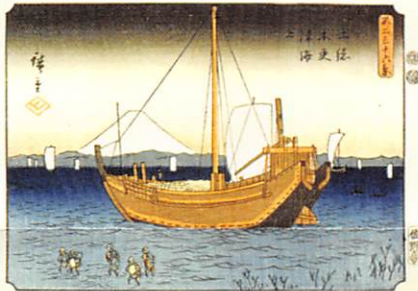


第8展示室 千葉県指定文化財 東京湾のり生産用具

立て



大名請西藩林家家紋



第4展示室 木更津船



昭和廿年



第4展示室 與三郎 於富



機織り実演・体験



受付 調査成果としての各種刊行物販売



の昔のくらし体験学習



館内 君津地方公立博物館協議会の民具調査活動

木更津の歴史

旧石器
縄文
弥生
古墳
奈良・平安
鎌倉
室町・戦国
江戸
明治
大正
昭和
平成

- ナウマンゾウ(管生・清見台で化石骨)
- 参考：市原市草刈C 遺跡 県内最古の石器(約3万3千年前)
- 中越遺跡(大久保)市内最古の石器(約3万年前)
- 下野洞遺跡(犬成) 小谷遺跡(請西南)
- 草創期 弓矢の発明 林遺跡(下郡) 久野遺跡(草敷)
- 早期 市内ではこの時期から縄文土器が確認される。台木A遺跡(かずさ鎌足)
- 前期 礫群・集石が散見される。西谷遺跡(桜井) 玉ノ谷遺跡(伊豆島)
- 中期 竪穴住居の調査件数が増加する時期 花山・伊豆山台遺跡(矢那)
- 後期 祇園・永井作・伊豆島貝塚
- 晩期 遺跡の確認数が極端に減少する。野洞遺跡(犬成)
- 前期 遺跡の確認数が極端に少ない時期 祝崎遺跡(管生)
- 中期 環濠集落・方形周溝墓群、遺跡数が増加する。鉄器の出現
管生遺跡(管生) 鹿島塚B遺跡(請西東) 井尻遺跡(井尻)
- 後期 高砂遺跡(高砂) 東谷遺跡(ほたる野)
- 出現期 前方後方墳の築造 高部30・32号墳(千束台)
- 前期 前方後円墳の築造 手塚古墳(港南台) 小銅鐸 中越遺跡(大久保)
- 中期 巨大古墳の築造 銚子塚古墳(高柳) 大塚山古墳(祇園)
祭祀遺跡 マミヤク遺跡(港南台) 千束台遺跡(千束台)
- 後期 首長墓と群集墳の展開 金鈴塚古墳(長須賀) 塚原古墳群(千束台)
- 終末期 古代寺院の建立 上総大寺廃寺(大寺) 牛ヶ作瓦窯跡(大久保)
- 700年頃 「馬来田評」【藤原京木簡】
- 717 望陀布の記載(令集解による) 732 上総国から望陀布貢納【平城京木簡】
国分寺の整備に伴い真里谷廃寺建立される(真里谷)
畔蒜郡家の一部か? 丹過遺跡(茅野) 万葉集に木更津周辺の歌が所収
この頃から竪穴住居跡が確認できなくなる。
- 1180 源頼朝、安房から下総方面へ北上。頼朝伝承(市内各地)
- 1273 「木更津」の初見【茂原市永興寺所蔵釈迦如来立像胎内文書】
- 1316 銅造阿彌陀如来立像造像(木の根沢)
- 1410 木更津八幡宮梵鐘鑄造(鎌倉本覚寺所蔵) 1416 上杉禅秀の乱
- 1454 享徳の乱 戦国時代の幕開け 1456 武田信長 上総入部【鎌倉大草紙】
- 1479 太田道灌による真里谷降伏【太田道灌状】
- 1500年代前半 真里谷武田氏複数回の内乱
- 1552 真里谷武田宗家滅亡【上総国古文書】 以後、里見氏と小田原北条氏の係争地となる。
- 1590 請西長楽寺に豊臣秀吉の制札(長楽寺所蔵)
- 1614 大坂の陣 木更津の水夫徴用される。
木更津河岸が江戸日本橋に設置
- 1693 木更津船之由緒書 作成
この頃 市指定文化財「旧安西家住宅」創建か
- 1806 葛飾北斎 長須賀日枝神社の奉納給馬描く 1817 高柳に至徳堂 創立
- 1825 林忠英 貝淵藩 立藩 1850 林忠旭、請西に陣屋を移す
- 1853 江戸中村座にて「与話情浮名横櫛」(お富、与三郎)初演
この頃 木更津甚句 江戸で歌い始められるという。
- 1868 請西藩主林忠崇ら、脱藩し箱根・福島東部などで新政府軍と交戦
- 1871 木更津県設置 貝淵に県庁を置く 1873 千葉県設置に伴い木更津県廃止
- 1881 出土品記録の初見(稲荷森古墳) 1885 知沢村でノリ養殖開始
- 1889 木更津町 成立 1896 この頃上総掘りの技術が完成する
- 1912 鉄道 蘇我一木更津間 木更津一久留里間が開通
- 1923 関東大震災
- 1936 木更津海軍航空隊開隊 木更津港竣工
- 1941 第二海軍航空廠 巖根に設置に伴い人口増加
- 1942 町村合併し木更津市成立
- 1945 4月前後 木更津市街地に建物強制疎開(富士見通りなど)
8/15 最後の空襲 最後の特別攻撃隊出撃 玉音放送
8/19 日本降伏の使節団、木更津飛行場から出発
9/2 米戦艦ミズーリ号上にて降伏文書調印
12月 木更津高等女学校「回顧昭和廿年」制作
- 1950 金鈴塚古墳発掘 1956 県内初の新設展示館「金鈴塚遺物保存館」開設
- 1959 「上総国木更津金鈴塚古墳出土品」の名称で重要文化財に指定
- 1960 「上総掘りの用具」が重要有形民俗文化財に指定
- 1970 豪雨により市内各地に被害
請西・中尾・笹子・かずさ鎌足地区で大規模な造成工事
- 1992 「木更津市中島の梵天立て」が記録作成等の措置を講ずべき
無形の民俗文化財に選択される
- 1997 千代倉桜舟 木更津市名誉市民に
- 2000 「選擇寺本堂」(中央)国登録有形文化財に登録
- 2004 「下郡郵便局旧局舎」(下郡)国登録有形文化財に登録
- 2008 木更津市郷土博物館金のすず開館
- 2011 東日本大震災 計画停電実施
- 「ヤマニ網島商店店舗」(中央)国登録有形文化財に登録



館紹介

太田山公園に博物館が建設されたのは、昭和45(1970)年。当時県立博物館の第1号館としてこの地に白羽の矢が立ちました。なぜ木更津だったのでしょか。

◎博物館本館の場所は、南に開けた谷津の奥で、やや標高があります。台風などの風水害や潮風による塩害から建物と資料を守るには良い条件でした。そのため、正面玄関は公園の地面より、一段下がった位置に設計されています。建物の外観が現地でわかりづらいのは、自然災害等から資料を守ろうと谷に囲まれた場所に建築した結果です。

◎街中と適度な距離が保たれているため、他から火災が発生しても類焼する危険が少ないと考えられました。

◎アジア太平洋戦争中に軍事施設が建設され、すでにある程度造成されており、博物館建設に伴う新たな自然改変が小規

模に抑えられると考えました。

◎県の財政的側面から教育機関の見直しが検討され、平成20(2008)年4月1日に市へ施設が移譲され、市立博物館として機関設置されました。平成20年10月1日が木更津市郷土博物館金のすずの開館日です。

◎現在、保管庫として使用している旧金鈴塚遺物保存館は、昭和31(1956)年に開館した県内最古級の展示施設でした。郷土博物館金のすずの機関設置に伴い、平成20年3月31日をもって閉館しました。



北西に東京湾を一望する太田山公園からは、天気の良い日には、遠く筑波山や東京スカイツリーを見ることができます。

頂上に立つきみさらずタワーは、ヤマトタケルがオトタチバナヒメを思い、この地を去り難かった伝説に因んで建てられています。

江戸時代中期創建と伝わる市指定文化財「旧安西家住宅」では、きさらず文化財ガイドボランティアの会が建物の解説を行っています。

木更津市郷土博物館 金のすず ホームページ

<https://www.city.kisarazu.lg.jp/shokai/rekishi/hakubutsukan/1002106.html>

金のすず

検索



太田山公園



至 木更津駅

至 国道16号線